

平成29年度の予防接種

問い合わせ 健康センター ☎23・2191

予防接種を受けて感染症から身を守りましょう。各制度の実施医療機関は健康センターへお問い合わせください。詳細は市ホームページでもご覧になれます。

ご利用になる場合は、医療機関が定める料金から公費助成額を除いた金額を自己負担していただきます。料金は医療機関により異なりますので、各医療機関へお問い合わせください。なお、生活保護受給者および中国残留邦人等に対する支援給付の対象者は、対象者証明書類をお持ちになると無料を受けられます。

① 高齢者の肺炎球菌定期予防接種：29年度は表2の方へ4月上旬までに予診票を送付します。接種を受ける義務はありませんので、ご自身の体調をよく知る医師と相談のうえ、判断してください。

② 予診票を紛失したら：母子健康手帳を持って、健康センターへお越しください。予診票を再発行します。

③ 青梅市に転入したら：4月1日以降に市外から転入した方は、今後の予診票の発行に今までの接種記録が必要で、母子健康手帳を持って、健康センターへお越しください。

大人の予防接種と抗体検査

次の各予防接種制度を

① 有効期限：30年3月31日

※29年度の予診票は緑色の線で印刷されています。紫色や水色、茶色の線で印刷された過年度の予診票は無効です。

② 大人の風しん抗体検査・予防接種費用助成：風しんに対する十分な免疫の有無を抗体検査で調べ、抗体が少ない方には予防接種を受けていただく制度です。対象者は保険証をお持ちのうえ、医療機関で抗体検査等を受けてください。

③ 対象：過去に本制度を利用したことがない方

④ 抗体検査：妊娠を予定または希望する19歳以上の女性

⑤ 予防接種：19歳以上の女性で、市が実施する抗体検査または妊婦健康診査の結果、抗体が少ないと判明した方が対象

⑥ 公費助成額：全額公費助成

⑦ 抗体検査：全額公費助成

⑧ 予防接種：麻しん風しん混合ワクチン（MR）は5千円、風しん単独ワクチンは3千円

⑨ 有効期限：30年3月31日

表1 お子さんの定期予防接種一覧 ※BCGは健康センター、それ以外は市内医療機関で実施

種類	接種間隔・接種時期	接種回数	対象年齢等	通知発送時期
ヒブ(注1)	初回	27日以上の間隔	生後2か月以上5歳に至るまで	生後2か月
	追加	初回終了後7か月以上経過後		初回終了後7か月
小児用肺炎球菌(注1)	初回	27日以上の間隔	生後2か月以上5歳に至るまで	生後2か月
	追加	初回終了後60日以上経過後		初回終了後60日以上経過した1歳児
B型肝炎(注2)	1回目・2回目	27日以上の間隔	1歳に至るまで(平成28年4月1日以降生まれの児から対象)	生後2か月
	3回目	1回目終了後139日以上経過後		
四種混合不活化ポリオ(注3)	1期 初回	20日以上の間隔	生後3か月以上7歳6か月に至るまで	四種混合を生後3か月
	追加	初回終了後6か月以上経過後		初回終了後6か月
二種混合	2期	11歳以上13歳未満	11歳以上13歳未満	11歳
BCG(注4)		予診票に記載されている日程(集団接種)	1歳に至るまで	生後3か月(乳児健診の受診票に同封)
水痘(注5)		3か月以上の間隔	1歳以上3歳に至るまで	1歳
MR(麻しん・風しん混合)	1期	1歳以上2歳に至るまで	1歳以上2歳に至るまで	1歳
	2期	小学校入学前の1年間	小学校入学前の1年間	小学校入学前年の4月
日本脳炎(注6)	1期 初回	6日以上の間隔	生後6か月以上7歳6か月に至るまで	3歳
	追加	1期初回接種終了後6か月以上経過後		初回終了後1年を経過した4歳児
	2期	9歳以上13歳未満	9歳以上13歳未満	9歳
子宮頸がん(注7)		6か月間に3回	小学6年生から高校1年生相当までの女子	現在積極的勧奨は行っていません

(注1) 接種開始月年齢や接種間隔によって必要回数が異なります。
 (注2) 平成28年10月1日から定期接種を開始しました。28年4月1日～7月31日生まれの方は、接種期間が短くなっていますので、接種間隔・接種時期を守って早期の接種をお願いします。
 (注3) 三種混合ワクチンの接種が完了していない方は対象年齢に限り、四種混合ワクチンでの代用による接種が可能です。詳しくは、健康センターへお問い合わせください。
 (注4) 通知された日程で接種が受けられない方は他の日程をご案内しますのでお問い合わせください。
 (注5) 過去に自費接種した回数を除いた回数分のみ公費接種が可能です。
 (注6) 7年4月2日～21年10月1日生まれの方は、特例で接種期間が異なります。全4回の接種が完了していない方は健康センターへお問い合わせください。
 (注7) 接種後にまれに現れると痛等の症状との因果関係が否定できないことから、お勧めしていません。

② 大人の風しん抗体検査・予防接種費用助成：風しんに対する十分な免疫の有無を抗体検査で調べ、抗体が少ない方には予防接種を受けていただく制度です。対象者は保険証をお持ちのうえ、医療機関で抗体検査等を受けてください。

③ 対象：過去に本制度を利用したことがない方

④ 抗体検査：妊娠を予定または希望する19歳以上の女性

⑤ 予防接種：19歳以上の女性で、市が実施する抗体検査または妊婦健康診査の結果、抗体が少ないと判明した方が対象

⑥ 公費助成額：全額公費助成

⑦ 抗体検査：全額公費助成

⑧ 予防接種：麻しん風しん混合ワクチン（MR）は5千円、風しん単独ワクチンは3千円

⑨ 有効期限：30年3月31日



表2 高齢者の肺炎球菌定期予防接種対象者候補一覧

区分	生年月日
65歳	昭和27年4月2日～28年4月1日
70歳	昭和22年4月2日～23年4月1日
75歳	昭和17年4月2日～18年4月1日
80歳	昭和12年4月2日～13年4月1日
85歳	昭和7年4月2日～8年4月1日
90歳	昭和2年4月2日～3年4月1日
95歳	大正11年4月2日～12年4月1日
100歳	大正6年4月2日～7年4月1日

※60～64歳の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害のある方も対象になる可能性があります。接種を希望する場合は健康センターへご連絡ください。
 ※過去に市の制度を使って肺炎球菌ワクチンを接種済みの方には通知していません。

3～4時間以内がゴールデンタイム！

脳梗塞かなと思ったら一刻も早く受診を！

青梅市医師会健康コラム27

青梅市立総合病院神経内科部長 田尾修

脳梗塞の治療は時間との闘いです。組織プラスミノゲンアクチベータ（t-PA）の点滴による血栓溶解療法が急性期脳梗塞に対して国内で承認されたのは2005年で、それまでの治療は今以上に悪くしないことが目的であり、薬による劇的な症状改善は望めませんでした。

この10年間に治療できる時間帯が梗塞発症後3～4.5時間以内に拡大され、血栓溶解療法はますます積極的に行うべき急性期脳梗塞の治療法として普及しました。2010年ごろからは血栓溶解療法により血栓が溶けない場合を想定し、血栓を除去するための血管内治療も試みられています。

当院では年間約10例の血栓溶解療法を行い、約

この10年間に治療できる時間帯が梗塞発症後3～4.5時間以内に拡大され、血栓溶解療法はますます積極的に行うべき急性期脳梗塞の治療法として普及しました。2010年ごろからは血栓溶解療法により血栓が溶けない場合を想定し、血栓を除去するための血管内治療も試みられています。

当院では年間約10例の血栓溶解療法を行い、約

問い合わせ 健康センター ☎23・2191